

稲WCSの普及推進による飼料自給率の向上

畜産技術センター普及指導課

実施期間：令和3～4年

課題・目的

- 近年、配合飼料価格の高騰や輸入乾牧草の入手困難な状況が続いており、購入飼料への依存度が高い本県の畜産経営において、飼料費の高騰が経営を圧迫している。
- 飼料自給率の向上のために、水田を利用した新たな飼料作物として稲WCS(ホールクロップサイレージ)の生産が期待されており、県内で初めてWCS用稲の栽培に取り組む酪農家を支援した。

活動内容

- WCS用稲の品種は、消化性の悪い子実(モミ)割合が低く、茎葉に養分が蓄積し、食用稲収穫後の収穫が可能である晩生品種の極短穂茎葉型品種「つきすずか」を提案した。
- 実証展示圃(0.5ha)を設置し、種籾の手配、栽培方法や収穫機械等の情報提供、収量調査等を実施した。
- 収穫は、令和3年度は県外のコントラクターに委託して専用収穫機で行ったが、令和4年度は酪農家が所有する牧草収穫機械を活用することとなり、収穫作業における課題を調査し、作業性を改善する方法を提案した。
- 県内におけるWCS用稲の栽培や牧草収穫機械を用いた収穫について、酪農技術研究会等で酪農家に情報提供をし、普及を図った。



栽培状況(左側がWCS用稲)



牧草収穫機械(令和4年度)

今後の展開

- 令和5年度は酪農家4戸(作付面積1.9ha)がWCS用稲の栽培に取り組むこととなり、栽培方法等の支援を実施する。
- 実証展示圃を2か所設置し、栽培状況や収量を調査し、普及推進を図る。